



雅楽の夕べ

悠久の時を超えて蘇る
幽玄の世界



舞人 原笙会・妙見宮舞楽愛好会

演奏 天理関門雅楽会

◆演奏曲

謡物「白拍子」

舞楽「陪臚」

舞楽「納曾利／破・急」

管弦「五常楽急」

管弦「長慶子」



※コロナ対策のため席数に限りがあります。

令和三年

10/31(日) 入場無料
15:00~16:30



会場 足立山妙見宮 神楽殿

※野外のため、雨天の場合は中止。少雨決行。
※開催の有無は、前日13時までに決定します。

(北九州市小倉北区妙見町17-1)

主催:北九州雅楽振興後援会

後援:北九州市、東アジア文化都市北九州実行委員会

後援:財団法人創生奨学会

協力:北九州ライオンズクラブ



演目の解説

【謡物】 白拍子

舞楽ではありませんが、平家物語に登場する祇王と祇女、仏御前が舞ったとして人気の高い風俗舞です。

頭には高烏帽子、緋の長袴に白の水干。太刀を吊り、扇をかざして舞う姿は、平安時代女性が男装をした初めです。宝塚の男役の魅力に共通する美しさです。

【舞楽】 陪臚（ぼいろ）

林邑八楽の一つ。五破陣楽の一つ。班郎徳という人が作ると思います。我が国には天平8年(736)に来朝した林邑国の婆羅門僧正が伝えたといわれています。

陣の日にこの楽を奏して死生を知る、この楽七返の時に舎毛音しやもうのこえがあれば勝つといわれています。

舞は聖徳太子が物部守屋と対した時に、この楽を奏して舎毛音があつて勝つたのを模して作るともいわれています。

【舞楽】 納曾利（なそり）

「双竜舞」という別名もあり、昔宮中に雄雌の青竜が降り立ち、聖寿を祝って舞い遊んださまを写したともいわれます。

舞人は初め、同じ手振りです舞いますが、途中から離れ離れに飛び交い、向かい合い背中合わせになったりして破の舞を舞います。

一手一足まちがえると合わない難しさがあり、これがこの舞の面白さといえます。

曲の半ばで、向い合い、ひざまずき、調子が唐拍子という軽快なリズムに変わります。

枕草子205段「舞は」の中で「落躑は二人して膝踏みて舞いたる」とあるのがこの舞です。

現在は二人で舞うのを「納曾利」、一人で舞うとき「落躑」と称していますが、奈良春日大社では、二人で舞うのを「落躑」と称しておられ、「蜻蛉日記」内裏の賭弓（うちののりゆみ）の文中、道綱が納曾利を舞ったことが見え、平安時代は現在と逆の呼び方をしていたことがわかります。

昔、競馬の節会には右方が勝つと、必ずこの曲を奏しました。現在でも、5月5日、上賀茂神社の競べ馬で奏されます。

【管弦】 五常楽急（ごしょうらくのきゅう）

人が常に行うべき5つの徳・五常（仁・義・礼・智・信）を五音（ごいん：音階）に配してつくられた「五音の和」をよく備えた名曲とされています。

唐の太宗（たいそう）が作ったといわれ、別名が数多くあります。

「序、破、急」の3つの楽章が整って伝わる数少ない曲で、舞楽曲として演じられています。特に「急」の楽章は管弦の曲として多く用いられます。この部分は早八拍子、拍子八となります。

【管弦】 長慶子（ちょうげいし）太食調

平安時代の源博雅作曲といわれています。

舞を伴いませんが舞楽曲に分類されています。舞楽が終了し、退出を促す退出音声として必ず演奏されます。

◆ご来場・ご観覧にあたっての注意事項◆

- ・入場・観覧にあたっては、必ずマスクを着用ください。
- ・体調の優れない方など、感染症の疑いのある方のご入場はお断りすることがあります。
- ・会場内では係員の指示に従っていただきます。
- ・駐車場はございますが限りがございますので、なるべく公共交通機関等を利用してお越しください。

【お問い合わせ先】

北九州雅楽振興後援会

TEL093-921-2292

(妙見神社内)

<http://www.myouken.or.jp>



東アジア文化都市
北九州2020-21
CULTURE CITY OF EAST ASIA IN KITAKYUSHU
パートナーシップ事業

